

第3期 檀原市教育大綱 アクションプラン

(令和 8年度改正版)

令和8年度～令和14年度

I 就学前の保育・教育、学校教育

方針 I 就学前の保育・教育の充実

I 就学前の保育・教育の質の向上

こども未来課

事業計画 (No.0010)	遊びや生活を通じた学びを支えるため、保育・教育に携わる職員の専門性を高めます。子どもの育ちの特徴の理解、特別支援、小学校との接続等をテーマとした計画的な研修や公開保育、園内研修を実施し、実践力や指導力の資質向上を図ります。また、各園の取組みを共有することで保育・教育の質の平準化を進めます。						
目 標	専門的なスキルを習得し、平準化することで子ども一人ひとりの能力を引き出すとともに、遊びや生活を通じた学びを核に、子ども一人ひとりの発達や興味を丁寧に捉え、主体的に関わる力を育む保育・教育を推進します。						
評価指標	園目標に対して到達度として感じている職員と保護者の割合						
目 標 値	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度	令和13年度	令和14年度
	75%	80%	81%	82%	83%	84%	85%
事業計画、目標、評価指標、目標値を設定した理由・内容等	<p>就学前は人格形成の基礎を培う重要な時期です。</p> <p>子どもの発達の個人差や多様性が広がっており、画一的な指導では対応が困難です。保育者の理解と実践力が、保育を向上させます。</p> <p>目標値については、7年後の85%をめざし、少しずつ向上を図ります。</p>						

事業計画 (No.0020)	特別な支援を要する子ども一人ひとりの発達過程に配慮し特性に応じた支援を行うため、関係機関と連携した支援体制を整えます。専門職による助言を通して保育・教育の質を高め、個別の教育支援計画や個別の指導計画及び園内委員会の充実を図ることで、子どもの自立と安心した園生活につなげます。						
目 標	一人ひとりの特性に応じた支援を充実させ、すべての子どもが安心して自分らしく成長できる保育・教育環境を実現します。						
評価指標	子どもが安心して園生活を送っていると思う保護者の割合						
目 標 値	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度	令和13年度	令和14年度
	75%	78%	80%	82%	83%	84%	85%
事業計画、目標、評価指標、目標値を設定した理由・内容等	<p>幼児教育において最も大切なことは、すべての子どもが安心して自分らしく成長できる保育・教育環境を整えることです。</p> <p>特別な支援を要する子どもについて、関係機関と連携しながら、早期発見・早期支援を行い、集団生活への適応と安心した園生活を支えることで向上を図ります。</p> <p>目標値については、現在の平均が74%であることから、満足度の低い園の満足度を上げていくことで実現できるよう設定しました。</p>						

事業計画 (No.0030)	家庭や地域と連携し、子どもの育ちを社会全体で支える環境づくりを推進します。保護者との対話や情報共有を大切にするとともに、体験的な活動を通して、子どもが人と関わりながら学ぶ力や豊かな心を育みます。						
目 標	家庭・地域と協働し、子どもの育ちを支えるつながりを強化することで、社会性と豊かな心を育む教育環境を構築します。						
評価指標	保護者アンケートにおける「園での子どもの様子がよく分かる」と回答した割合						
目 標 値	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度	令和13年度	令和14年度
	80%	81%	82%	83%	84%	85%	85%
事業計画、目標、評価指標、目標値を設定した理由・内容等	<p>家庭や地域と連携し、保護者との対話や情報共有を充実させることで、子どもの育ちを社会全体で支える環境づくりを推進します。また、園と家庭が子どもの育ちを共有することで、社会性や豊かな心の育成につなげていきます。</p> <p>保護者が園での子どもの様子を理解できているかを指標とし、家庭・園の連携状況を客観的に把握するため、アンケート結果を評価指標としました。</p> <p>目標値については、現状の水準(77.2%)を踏まえて設定しました。取組みの定着を図りながら継続的な改善により段階的に向上を図ります。</p>						

2 就学前と小学校との連携

こども未来課

事業計画 (No.0040)	就学前教育において、子ども一人ひとりの育ちや学びを丁寧に捉え、架け橋期を見据え幼児期までに育まれた「10の姿」や非認知能力を小学校につなぐため、指導内容や育ちの視点を整理し、小学校との情報共有や相互理解を図ることで、子どもが安心して小学校生活へ移行できるように接続の充実をめざします。						
目 標	幼児期の学びを小学校教育へ円滑につなぎ、子どもが安心して就学に移行できる連携体制を確立します。						
評価指標	小学校との交流・協議の実施回数(6回)の継続と連携の確立を感じる割合 (交流会に参加した園と小学校の職員に対して、年度最後の交流会の後のアンケート調査)						
目 標 値	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度	令和13年度	令和14年度
事業計画、目標、評価指標、目標値を設定した理由・内容等	<p>幼児期の学びを基礎として、子どもが安心して小学校生活に移行し、主体的に学びや生活にかかわることができるように、幼児教育と小学校教育の相互理解を深め、連続性のある学びを実現します。</p> <p>幼小連携会議や合同研修・交流等の実施により相互理解をはかってきました。年長児から小学校1年生にかけての「架け橋期」のカリキュラムが作成された中で、今後は回数だけでなく、内容を充実させて達成度を高めていきます。</p> <p>目標値については、現在の園の感じる達成度が68%であることから、今後積み重ねて高めていけるよう設定しました。</p>						

3 教育施設の整備

こども政策課
教育総務課

事業計画 (No.0050)	<p>檀原市保育所・幼稚園適正配置実施計画に基づき、公立幼稚園の再編や幼稚園型又は幼保連携型の認定こども園を整備します。また、今後も保護者や地域住民、関係機関に対する説明会を開催し、意思疎通を十分に図りながら取り組んでいきます。</p>						
目 標	<p>一貫して質の高い保育・教育を提供するため、公立幼稚園・認定こども園の再編等を進めます。</p>						
評価指標①	<p>公立幼稚園・認定こども園の再編数</p>						
目 標 値	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度	令和13年度	令和14年度
	0	1	0	0	0	1	0
評価指標②	<p>地域住民及び保護者等への適正配置に関する説明会の開催件数</p>						
目 標 値	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度	令和13年度	令和14年度
	8	8	8	8	8	8	8
事業計画、目標、評価指標、目標値を設定した理由・内容等	<p>核家族化や就労形態などの変化に伴い、子育てに対する保護者の考え方は多様化しています。本市においても、公立幼稚園では園児数が減少する一方、こども園では待機児童が発生しています。また、施設の老朽化等の問題も生じていることから、保育・教育環境の充実・整備が急務となっています。</p> <p>その中で本市の未来を担っていく子どもたちにより良い保育・教育を提供することを目的とし策定された「檀原市保育所・幼稚園適正配置実施計画」に基づき、公立幼稚園・認定こども園の再編等を進めます。</p> <p>評価指標①：現在再編することが公表(予定)されているものについての数としており、統合園の開園予定年度に算出することとしています。</p> <p>評価指標②：再編や認定こども園化、合同保育を行う際に、対象となる校区の地域住民、保護者の方々に対して丁寧な説明が必要であるため、毎年度継続して説明会を開催します。目標値については、再編の対象となる校区において、地域や保護者に理解を求めていくために必要な取り組みを想定した回数として設定しました。</p>						

方針2 学校教育の充実

Ⅰ 自らの人生を舵取りする力の育成

学校教育課

事業計画 (No.0060)	全国学力学習状況調査の結果に基づき、各校でPDCAプランを作成します。学校全体で取り組むことで、系統的・統一的な授業改善を行います。また、市主催の授業改善のための教職員研修を定期的に行い、個別最適で協働的な児童生徒の学びや課題解決的な学習につなげます。						
目 標	普段の授業において、児童生徒が学習課題の解決に向けて、教師が授業のデザインを個別最適または協働的に取り組むように計画することで、主体的・対話的な学習を実現します。						
評価指標	全国学力・学習状況調査の「今まで受けた授業で、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」という設問に対し、「当てはまる」・「どちらかといえば、当てはまる」と答えた割合						
目 標 値	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度	令和13年度	令和14年度
	70%	72%	74%	76%	78%	80%	82%
事業計画、目標、評価指標、目標値を設定した理由・内容等	<p>自らの人生を舵取りする力の育成を図るために、学校教育においては「主体的・対話的な学習」の展開が不可欠です。</p> <p>目標値については、初年度は令和7年度の全国・学力学習状況調査における本市の実績値69%を根拠に、最終目標については、同年の全国公立学校平均値79%を上回るように設定しています。</p>						

2 新しい時代に必要となる資質・能力の育成

学校教育課

事業計画 (No.0070)	体力向上事業を通して、進んで体を動かしたり、新たな動きやスポーツを知ったりすることで、体を動かす楽しさや動きを習得する達成感を学び、生涯にわたって運動しようとする思いにつながっていきます。						
目 標	体育の授業を通して、様々な動きや運動を経験することで、体を動かす楽しさを味わったり、健康な体づくりにつながりして、進んで体を動かそうとする思いを育みます。						
評価指標	体力運動能力テストでの質問紙で運動が好きという設問で「好き」の割合						
目 標 値	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度	令和13年度	令和14年度
	55%	56%	57%	58%	59%	60%	61%
事業計画、目標、評価指標、目標値を設定した理由・内容等	<p>新しい時代に必要となる資質・能力の育成として、とりわけ体力向上に重点を置き、生涯にわたって運動しようとする思いを育むことをめざします。令和8年度より体力向上事業として、小学校3・4年生を対象に体育専科教員をモデル校2校に配置し、効果検証を行います。</p> <p>目標値については、令和6年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の実績値53%を踏まえ、初年度は55%に設定しました。最終目標は同年の全国公立学校の平均値59%を上回るように設定しています。</p>						

事業計画 (No.0080)	<p>橿原市以外の日本の地域や海外の国の異なる自然環境や文化の風習に触れる機会を設けることで、他の地域や他国の文化を学び、受容し、共生することのできる力を育みます。合わせて、副読本の配布等を行い、郷土愛や芸術文化に関する理解を深めます。</p>						
目 標	<p>小中学生の段階から多様な文化に触れさせ、それぞれの違いや良い点を学ぶことを契機に、多様性を認め合う豊かな心を育みます。</p>						
評価指標	<p>小中学校で、異文化交流(オンライン等で)授業を実施した学校数</p>						
目 標 値	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度	令和13年度	令和14年度
	3校	7校	11校	15校	17校	19校	21校
事業計画、目標、評価指標、目標値を設定した理由・内容等	<p>新しい時代に必要となる資質・能力の育成するために多様な文化に触れることで多様性を認め合う豊かな心を育みます。他の地域や他国の文化を学ぶ機会として、オンライン等で異文化交流を実施する以外に、ゲストティーチャーを招聘し、橿原市以外の日本の地域や海外の国の異なる自然環境や文化の風習に触れる活動を実施します。</p> <p>目標値については、令和7年度のオンライン等による異文化交流の実績が2校であることから、初年度については3校に設定しました。最終目標は全校21校をめざします。</p>						

3 誰もとりのこさない学びの充実

学校教育課

事業計画 (No.0090)	一人1台の端末を活用し、様々な性質をもった児童生徒等が自分のペースで授業を受けることのできる環境を整備します。また、そのための教職員のICT活用能力の向上に取り組みます。						
目 標	授業で、一人1台の端末にインストールされている学習支援ソフトをすべての児童生徒が学びを深めることができるように活用します。						
評価指標	学習支援ソフトの市内小中学校の活用率						
目 標 値	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度	令和13年度	令和14年度
	46%	50%	54%	58%	62%	66%	70%
事業計画、目標、評価指標、目標値を設定した理由・内容等	<p>誰もとりのこさない学びの充実については、一人1台端末を活用した個別最適な学習・共同的な学習を実現すべく、学習支援ソフトを活用します。</p> <p>目標値については、令和7年度の実績値43%を踏まえ、初年度は46%に設定しました。最終的には、現在活用している学校の活用率を基準とし、70%と設定しています。</p>						

4 探究的な学びをすすめるための情報活用能力や課題解決能力の育成

学校教育課

事業計画 (No.0100)	児童生徒が一人1台の端末を授業内で効果的に活用し、課題を分析・整理したり、話し合いをしたり、発表をしたりすることで、情報活用能力の育成を進めます。						
目 標	各学校と学年の実態に応じて、ICT 機器を学びのツールの一つとして使用し、様々な課題を自ら解決しようとする能力を育みます。						
評価指標	全国学力学習状況調査の児童生徒質問「PC・タブレットなどのICT機器を使って情報を整理する(図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる)ことができると思いますか」で、「とてもそう思う」・「そう思う」と答えた割合						
目 標 値	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度	令和13年度	令和14年度
	54%	56.5%	59%	61.5%	64%	66.5%	69%
事業計画、目標、評価指標、目標値を設定した理由・内容等	<p>探究的な学びをすすめるため、児童生徒が一人1台の端末を授業内で効果的に活用し、課題を分析・整理したり、話し合いをしたり、発表をしたりすることで、情報活用能力の育成を進めます。</p> <p>目標値については、令和7年度本市の実績値53%に基づいて、初年度は54%に設定しました。なお、最終目標としては、現在の全国実績値66%を上回る69%と設定しました。</p>						

5 地域や家庭で学び続ける教育の充実

学校教育課

事業計画 (No.0110)	各教科のまとめや総合的な学習の時間で、檀原市の環境や人材を活用した学習を推進し、郷土の歴史や文化を理解し、郷土への誇りや愛着を育みます。そして、地域をより良くする思いや行動へつなげていきます。						
目 標	郷土の歴史や文化を理解し、檀原や奈良への誇りや愛着、より良くしたい気持ちを育みます。						
評価指標	全国学力学習状況調査の児童生徒質問「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いませんか」に対して、「当てはまる」・「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合						
目 標 値	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度	令和13年度	令和14年度
	75%	76%	77%	78%	79%	80%	81%
事業計画、目標、評価指標、目標値を設定した理由・内容等	<p>地域や家庭で学び続ける教育を充実するために、地域住民、地域企業等を講師にしたり、地域に見学に行ったりした授業を実施することで、郷土の歴史や文化を理解し、檀原や奈良への誇りや愛着や、より良くしたい気持ちを育みます。</p> <p>目標値については、令和7年度の実績としては、74%であったのを踏まえ、初年度については75%と設定しました。最終目標としては、全国実績値78%を上回るように設定しました。</p>						

6 特別支援教育の充実

学校教育課

事業計画 (No.0120)	子ども一人ひとりに応じた支援の方法や自立活動、環境整備に関する知識の積み上げ、個別の教育支援計画及び指導計画の作成について、特別支援教育に関する研修会を実施します。						
目 標	特別支援教育に関する理解度を高めるため、特別支援教育コーディネーター及び特別支援学級担任、通級指導担当者、その他教員の資質向上をめざします。						
評価指標	研修受講者の理解度(アンケート)						
目 標 値	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度	令和13年度	令和14年度
	91%	92%	93%	94%	95%	96%	97%
事業計画、目標、評価指標、目標値を設定した理由・内容等	<p>特別支援教育の充実に向けて、特別支援教育に関する研修会を実施することで、特別支援教育コーディネーター及び特別支援学級担任、通級指導担当者、その他教員の資質向上をめざします。</p> <p>目標値については、令和6年度の実績値90%に達しているため、初期値としては91%を設定し、最終目標97%をめざします。</p>						

7 いじめ・不登校に対する取組み

学校教育課

事業計画 (No.0130)	学校に、いじめ・不登校対策指導員、スクールカウンセラー及び心理相談員を配置し、支援体制を強化します。また、登校後の居場所に不安を抱く子どもたちのために「校内サポートルーム」を設置し、その充実を図ります。さらに、不登校児童生徒支援として虹の広場の利用、ICTを使った「web 虹」の活用や相談など、個々の状況に合わせた細やかなサポートを行います。						
目 標	いじめ・不登校の兆候を早期に発見し、支援することで未然の防止に努めます。また、不登校児童生徒に対して、学力の低下を防ぎ、社会との関わりを保つことで子どもたちの進路選択を保障するため、サポート体制を充実します。						
評価指標	不登校による長期欠席児童生徒のうち、「校内サポートルーム」や虹の広場、スクールカウンセラーを利用した児童生徒の割合						
目 標 値	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度	令和13年度	令和14年度
	48%	50%	52%	54%	56%	58%	60%
事業計画、目標、評価指標、目標値を設定した理由・内容等	いじめ・不登校に対する取り組みとして、とりわけ不登校の児童生徒の学力低下を防ぎ、社会との関わりを保つことで子どもたちの進路選択を保障するために、「校内サポートルーム」や、虹の広場、スクールカウンセラーの利用促進を図ります。 目標値については、令和6年度実績42%に基づいて、初年度については48%を設定しました。最終的には、60%の児童生徒が「校内サポートルーム」や虹の広場、スクールカウンセラーを利用することをめざします。						

8 教育環境の充実

学校教育課

事業計画 (No.0140)	地域や学校からの要望や檀原市通学路交通安全プログラムによる定期的な合同点検を実施し、通学路上の児童生徒の安全確保を図ります。						
目 標	学校やPTA、教育委員会事務局、警察、道路管理者等による安全点検を行い、要対策箇所を共有し、登校指導や整備工事等につなげます。						
評価指標	地域や学校による安全点検で抽出された危険箇所における安全対策の割合						
目 標 値	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度	令和13年度	令和14年度
	85%	86%	87%	88%	89%	90%	91%
事業計画、目標、評価指標、目標値を設定した理由・内容等	<p>教育環境の充実を図るため、地域や学校からの要望や檀原市通学路交通安全プログラムによる定期的な合同点検を実施し、通学路上の児童生徒の安全確保を図ります。具体的には、市内全校区を3分割し、毎年1/3の地域に対して通学路の安全対策を実施しています。</p> <p>目標値については、令和6年度の実績値 83%に基づき、初年度は 85%と設定しました。最終的には、91%をめざします。</p>						

事業計画 (No.0150)	就労等により保護者が放課後や学校の長期休暇等に家庭にいない小学生に対し、小学校等の 余裕教室などを利用して適切な遊びや安心安全な生活の場を提供し、その健全な育成を図りま す。						
目 標	放課後児童クラブの運営を支援し、過ごしやすい環境づくりや待機児童の解消をめざします。						
評価指標	待機児童数						
目 標 値	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度	令和13年度	令和14年度
	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
事業計画、目 標、評価指標、 目標値を設定 した理由・内 容等	就学児童数は減少傾向にあるものの、共働き世帯の増加などによる社会情勢の変化により、放課後 児童クラブの利用ニーズは高まっています。 目標値については、保護者が安心して子育てと仕事などに取り組むことを支援できるよう、施設の確 保・維持管理などを通して待機児童数0人を維持する値を定めました。						

9 教育施設の整備

教育総務課

事業計画 (No.0160)	教育施設の老朽化改善、質的改善、バリアフリー、環境配慮、防災機能強化等を実施していきます。						
目 標	子どもたちが安全・安心で継続的に学校施設を利用できるように整備します。						
評価指標	小中学校のトイレの洋式化率						
目 標 値	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度	令和13年度	令和14年度
	65%	69%	72%	76%	82%	85%	89%
事業計画、目標、評価指標、目標値を設定した理由・内容等	<p>学校施設の老朽化により様々な不具合が発生する中で、「子どもたちが安全・安心で継続的に学校施設を利用できる」ことを目標としました。その中で、施設の質的改善として、保護者から高い要望が出ている小中学校のトイレ洋式化を評価指標としました。</p> <p>令和7年度には全校で50%を超える洋式化を達成しました。</p> <p>目標値については、10年で洋式化率100%になることをめざし、計画的に進めるものとして設定しました。</p>						

事業計画 (No.0170)	地域住民や保護者に対する説明会を開催し、十分な協議を行いながら、令和8年度に檀原市教育施設再配置実施計画(第2期)を策定します。策定後は、再編の対象となる校区に対して、具体的な再編の形を個別再編計画として示すための協議を開始し、統合校の開校・運営が円滑に行えるよう、諸課題への対応策等について検討していきます。						
目 標	小規模化及び老朽化する小中学校を再編し、子どもたちにとってよりよい教育環境を整備します。						
評価指標①	小中学校の再編数						
目 標 値	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度	令和13年度	令和14年度
	0	0	0	0	0	1	0
評価指標②	再編に関する住民説明会の開催件数						
目 標 値	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度	令和13年度	令和14年度
	12	10	8	8	7	6	6
事業計画、目標、評価指標、目標値を設定した理由・内容等	<p>今後、少子化の進行により児童生徒数は減少し、学校は小規模校化することが見込まれます。また、小中学校は人口急増期に集中して整備されたことから今後多くの建物が建替時期を迎えます。そのような中、より良い教育環境を整備し、充実した教育の実現に資するため、将来を見据えて小中学校の再編を進めます。</p> <p>評価指標①:再編することを予定している学校の数としており、統合校としての開校予定年度に算出することとしています。</p> <p>評価指標②:再編に際しては、地域住民・保護者等の理解や協力を得ながら進めていくことが重要であり、丁寧に説明を行っていく必要があることから、住民説明会を開催します。目標値については、再編の対象となる校区において、地域や保護者に理解を求めていくために必要な取り組みを想定した回数として設定しました。</p>						

10 安心安全な給食の提供と食育

教育総務課

事業計画 (No.0180)	地場産物の活用を促進し、郷土料理の提供を行います。「檀原の日」の給食等、毎月、食育の日を設定しテーマを決めた献立を提供します。また、食育の授業や講話を通して、地元の農産品や食物の旬等、食に関する知識を習得できるよう、学校全体で食育を推進します。						
目 標	学校給食を通して郷土料理や地元の農産物、旬の食材を味わう体験をすることで、地域の食文化への興味や関心を引き出し、児童生徒の食に関する自己管理能力の形成を図ります。						
評価指標	学校給食における地場産物の使用品目数						
目 標 値	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度	令和13年度	令和14年度
	415	420	425	430	435	440	445
事業計画、目標、評価指標、目標値を設定した理由・内容等	<p>安心安全な学校給食を提供するとともに、学校給食を「生きた教材」として、食にかかわる人々への感謝の心を持つことや郷土の食文化、食料の生産・流通等の学習につなげていきます。生きる上での基本となる「食」に関する知識や「食」を選択する力を身につけることで、生涯にわたり健全な食生活を実践できるよう、栄養教諭等が中心となって学校全体で食育を推進するとともに家庭との連携を図っていきます。</p> <p>目標値については、令和4年3月に「学校及びこども園の給食における地場産物等の活用に関する協定」を締結し、市・農政課を中心に生産者と連携することで、順調に地場産物の活用数を増やしてきましたが、近年の異常気象や人手不足等の社会状況の変化により地場産品の供給量が減少していることを鑑みて設定しました。</p>						

方針3 発達相談・療育の充実

1 教育・福祉・保健等の総合的な視点から、療育・相談・研修等を実施

こども発達支援課

事業計画 (No.0190)	就学前においては、心理相談員による相談支援や発達状況を客観的に把握するための発達検査を行い、子どもの特性を見極めることで早期に必要な支援につなげます。また、発達段階に合わせて、幼児療育教室や児童発達支援事業所「かしの木園」で専門職による個別・集団の療育や相談を行います。就学後においては、指導主事を中心に子ども、保護者及び教職員に対する相談支援や特別な支援を必要とする児童生徒に対する発達検査を行います。						
目 標	子どもの特性を見極め、早期に必要な分野の支援につなげることで適切な支援を行います。また、保護者の理解を深め、子育てへの不安を解消します。						
評価指標	療育的ニーズに合わせた支援の保護者満足度(アンケート)						
目 標 値	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度	令和13年度	令和14年度
	90%	90%	90%	95%	95%	95%	95%
事業計画、目標、評価指標、目標値を設定した理由・内容等	<p>早期からの相談と療育の継続事業です。早期からの発達相談により、適切な支援を継続的に行うことにより、幼児療育教室や児童発達支援(かしの木園)の利用に繋がっていく流れがあるため、総合的な結果として、評価指標はかしの木園と幼児療育教室を利用する保護者に対する満足度アンケートを採用しました。</p> <p>目標値については、90%の満足度を下回らないようにと考え、設定しております。</p>						

事業計画 (No.0200)	学校・園等への巡回訪問支援を行い、インクルーシブ(包摂的)な視点で保育・教育について検討し、集団場面における子どもの発達状況に応じた適切な指導と必要な支援について、子どもとの関わり方や学習支援等について、教職員と共に考える機会を持ちます。また、教職員への助言・指導を行います。						
目 標	インクルーシブな視点による保育・教育を浸透させることで、学校・園等及び地域における支援体制を強化します。						
評価指標	学校・園等における巡回訪問支援の有用度(アンケート)						
目 標 値	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度	令和13年度	令和14年度
	95%	95%	95%	95%	95%	95%	95%
事業計画、目標、評価指標、目標値を設定した理由・内容等	<p>すべての学校園に対してインクルーシブな視点で保育・教育について検討し共有できる事を目標とした継続事業です。インクルーシブの推進と支援体制を強化させることが求められており、学校・園等だけで取り組むだけではなく、センターの多職種で構成する訪問支援を実施し、その有用度を聞くアンケート結果を効果測定及び評価指標としています。</p> <p>目標値については令和3年度から高い実績値が出ており、95%を下回らないよう継続して事業実施していきたいと考え設定しました。</p>						

事業計画 (No.0210)	教職員や保護者等に対し、発達障がい等に関連した研修や普及・啓発活動を行います。奈良県立医科大学附属病院と連携し、教職員や保護者等を対象に医療的な知見からみた相談を行います。また、発達障がいの理解促進のため、市民向けの講演会も開催します。						
目 標	支援者の発達障がい等に関する理解を高め、支援技術の向上を図ります。						
評価指標	教職員等の発達障がい等についての理解度（アンケート）						
目 標 値	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度	令和13年度	令和14年度
	95%	95%	95%	95%	95%	95%	95%
事業計画、目標、評価指標、目標値を設定した理由・内容等	<p>発達障がいの理解と啓発を行い、支援者の発達障がい等に関する理解を高め、支援技術を向上させることが求められており、市民向け講演会や教職員向け研修会を実施しています。また、奈良県立医科大学との連携として、小児科・精神科の医師・看護学科の教授に年72回子ども総合支援センターで相談ができる継続事業です。評価指標については、教職員向け研修会後に行っているアンケートの理解度により、支援者の支援技術の向上を測定しています。</p> <p>目標値については令和3年度から高い実績値が出ており、95%を下回らないよう継続して事業実施していきたいと考え設定しました。</p>						

2 ライフステージに合わせた切れ目のない支援

こども発達支援課

事業計画 (No.0220)	子どもの成長過程により、必要とされる支援も変化します。各成長段階に関わった支援者が、ライフステージ移行の時期に行う相談や会議等に関わり、切れ目のない支援を行っています。蓄積した情報と共にきめ細やかな療育支援を行うことで、一人ひとりの成長に合わせた適切な支援に移行することができます。						
目 標	ライフステージ移行の安定は、就学前からの早期療育が土台です。ライフステージ移行に合わせて、各専門職による個々の特性が理解された支援を継続します。						
評価指標	成長段階に合わせた支援の保護者満足度(アンケート)						
目 標 値	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度	令和13年度	令和14年度
	90%	90%	90%	95%	95%	95%	95%
事業計画、目標、評価指標、目標値を設定した理由・内容等	<p>ライフステージの移行期に起こる支援の途切れをなくし、必要な支援を切れ目なく行うことが求められています。早期からの療育による支援が、子どもとその保護者のライフステージにおける安定をもたらすため、評価指標はかしの木園と幼児療育教室を利用する保護者に対する満足度アンケートを採用しました。</p> <p>目標値については、令和3年度82%の保護者満足度から始まり令和6年度には目標値である95%を超え、100%の満足度を達成しました。令和3年度から6年度までの満足度の平均値は87.5%であり、令和8年度の目標値は90%の満足度を下回らないよう継続して事業実施していきたいと考えています。</p>						

方針4 人権教育の推進

1 学校・園における人権教育

人権・地域教育課

事業計画 (No.0230)	人権教育の一層の推進に寄与するとともに、多様な教育的ニーズに対応するため、市立小中学校に児童生徒支援教員を配置します。児童生徒支援教員には計画的に研修を行い、資質の向上を図ります。						
目 標	児童生徒支援教員を配置することにより、人権教育のさらなる深化・充実を図るとともに、配置校における多様な教育的ニーズへの丁寧な対応を進めます。						
評価指標①	学校長にアンケート調査を行い、配置による効果について「大いに満足している」の回答割合						
目 標 値 ①	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度	令和13年度	令和14年度
	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
評価指標②	個別に学習支援を行った子どもたちにアンケート調査を行い、「学習に前向きに取り組めるようになった」との回答の割合						
目 標 値 ②	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度	令和13年度	令和14年度
	80%	80%	80%	80%	80%	80%	80%
事業計画、目標、評価指標、目標値を設定した理由・内容等	<p>子どもを取り巻く課題は多様化してきています。市児童生徒支援教員を配置することで、子どもへの人権教育の充実をめざします。</p> <p>評価指標① 配置校の校長にアンケート調査を行い、配置による効果についての満足度を指標にします。目標値については、研修会の充実などにより市児童生徒支援教員の資質の向上を図り、100%の満足度をめざします。</p> <p>評価指標② 市児童生徒支援教員が関わることで、学習に前向きに取り組めるようになった子どもの割合を配置の効果を図る指標にします。</p> <p>目標値については、令和7年度の子どもたちへのアンケートで「やればできると思えるようになった」「勉強が楽しくなった」などの回答が約71%（暫定値）であったので80%の子どもが学習に前向きに取り組めるようになることをめざし設定します。</p>						

事業計画 (No.0240)	学校・園の教職員・保育士に対し、人権課題の多様化を踏まえた研修を計画的に実施することで人権意識の向上と知識の深化を図ります。						
目 標	集合研修を充実させることで教職員・保育士の人権感覚の向上をめざします。						
評価指標	研修会への参加人数。						
目 標 値	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度	令和13年度	令和14年度
	175人	170人	165人	165人	165人	165人	165人
事業計画、目標、評価指標、目標値を設定した理由・内容等	<p>教職員の人権感覚の更なる向上には研修が不可欠と考え、年間5回を目安に研修会の開催を継続します。</p> <p>目標値については、教職員・保育士対象の研修会を年間5回実施した場合の研修会への参加人数で設定しました。</p>						

2 地域社会と共にめざす人権教育

人権・地域教育課

事業計画 (No.0250)	社会教育関係団体人権教育リーダー研修会を中心に各種研修会を開催し、地域の人権教育リーダーを育成します。						
目 標	多様な学びの場を提供し、人権教育の機会を充実させることで地域の人権意識を啓発し、講師団講師を中心とした人権教育リーダーが学校や地域の様々な場で活躍することをめざします。						
評価指標	社会教育関係団体人権教育リーダー研修会参加者の活用度(アンケート)						
目 標 値	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度	令和13年度	令和14年度
	90%	90%	90%	90%	90%	90%	90%
事業計画、目標、評価指標、目標値を設定した理由・内容等	<p>前期アクションプランでは別の指標を用いていましたが、学識経験者から意見をいただいたため、これまでのアンケートに「今回の研修の内容を活かすことができそうですか。」との活用度をはかる項目を追加し参加者の研修後の活用強化を図ります。</p> <p>目標値については、理解度の過去5年間の結果は70%~90程度%であったことから、90%と設定しました。</p>						

事業計画 (No.0260)	<p>檀原市人権教育推進協議会等を補助すること等により、研修会を充実させ、教職員・保育士や地域の方への人権学習の学びの場を提供します。</p>						
目 標	<p>教職員・保育士や地域人材の育成を図ることで、人権文化豊かな檀原市をめざします。</p>						
評価指標	<p>地区別懇談会等の研修会等への参加人数</p>						
目 標 値	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度	令和13年度	令和14年度
	1,000人	1,000人	1,000人	1,000人	1,000人	1,000人	1,000人
事業計画、目標、評価指標、目標値を設定した理由・内容等	<p>檀原市人権推進協議会は人権が尊重される地域社会づくりを目的に、市及び小学校区単位で活動されております。特に小学校区単位では毎年地区別懇談会等を開催いただいています。人権文化豊かな檀原市をめざす中で、地域に広く発信をしているので各種研修会への参加人数を評価指標としました。</p> <p>目標値については、令和6年度の906人、コロナ前の令和元年の参加人数949人を参考にし、1,000人と設定しました。</p>						

Ⅱ 生涯学習・社会教育

方針Ⅰ 生涯学習・社会教育の推進

Ⅰ 次世代を担う青少年に必要な「生き抜く力」の育成

人権・地域教育課

事業計画 (No.0270)	青少年の非行などを未然に防止するため、関係機関や団体等と連携をとりながら、登下校や祭礼時の巡回・巡視活動、有害環境の浄化活動に取り組みます。また、青少年の被害を防止するための広報啓発活動を行います。						
目 標	家庭・学校・地域が一体となり、青少年の安全確保と健全育成のための環境を整備します。						
評価指標	巡回・巡視回数(下校時、朝・夜巡回、のべ回数)						
目 標 値	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度	令和13年度	令和14年度
	200	200	200	200	200	200	200
事業計画、目標、評価指標、目標値を設定した理由・内容等	<p>青少年にとって、挨拶を交わすという行為は健全な育ちにつながります。巡回・巡視活動を通して、「大人が見守っている」という姿勢を見せることで、青少年が安心して挨拶を交わし、自己肯定感を高める要因の一つになり、ひいては非行の抑止につながります。青少年センター指導員及び青少年指導委員等による巡回・巡視の回数を評価指標とします。</p> <p>目標値については、令和6年度に学校統廃合がありましたが、前期アクションプランと同じ200回としました。</p>						

事業計画 (No.0280)	青少年とその保護者が抱える悩みに対する相談活動を実施し、助言、指導を行うとともに、関係機関と連携することにより、問題の解消につなげます。						
目 標	家庭内だけで抱え込まず、悩み相談することのできる場を整えることで、青少年とその保護者が今抱えるしんどい感情を和らげます。						
評価指標	相談件数						
目 標 値	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度	令和13年度	令和14年度
	25	25	25	25	25	25	25
事業計画、目標、評価指標、目標値を設定した理由・内容等	<p>相談者が抱えるその時のしんどい感情を和らげ、少しでも前向きになることをめざし、相談しやすい環境づくりに注力します。令和4年度に青少年センターの職員を4人から3人に見直し、相談業務を週5日から3日の実施となっており、縮小以降の相談件数が、令和4年度13件、令和5年度23件、令和6年度17件となっています。評価指標は前期アクションプランと同様に相談件数とし、目標値については、過去最多の23件に近づけるよう、25件としました。</p> <p>また、青少年センター「悩み相談」を、園児・児童・生徒及びその保護者に対し、案内チラシを配布するとともに、市内公共施設にチラシを配架し、市ホームページに掲載するなど、周知・啓発に努めます。</p>						

事業計画 (No.0290)	地域社会における青少年の健全育成を推進するため、地域の青少年育成団体の活動を支援するとともに、地区公民館を活用して大人との交流事業を実施します。青少年が地域内の様々な人と触れ合い、交流することを通じて人と人との繋がりを強化し、様々な体験・学習をすることのできる居場所づくりを進めます。						
目 標	様々な交流や体験を通し、社会の一員であることの自覚を醸成することで青少年の健全育成と社会参加への意識を培います。						
評価指標	生涯学習、社会教育事業への参加者数						
目 標 値	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度	令和13年度	令和14年度
	3,750	3,800	3,850	3,900	3,950	4,000	4,000
事業計画、目標、評価指標、目標値を設定した理由・内容等	<p>世代間交流を図り、地域学習を通じてつながり作りから居場所づくりへの発展をめざしていますが、遊びのデジタル化により各自が室内で楽しめることで、地域活動への関心が相対的に低くなっています。しかし、研修会等を実施し、さらに楽しさや達成感を得られるような活動内容に改善し、参加者の増加を図ります。</p> <p>目標値については、令和6年度のこども教室参加延べ人数(3,612人)を基準に、少子化を勘案し、年1%程度の増加を見込み、6年程度で4,000人の参加をめざします。</p>						

2 「学ぶ意欲」の支援と「学ぶ機会」の提供

生涯学習課

事業計画 (No.0300)	地区公民館等において、市民が自主的に学びたいことを学ぶことができる「地域学級」を実施します。「地域学級」を運営する「生涯学習推進委員」を各地区より推薦を受け委嘱し、その活動を支援します。						
目 標	市民が楽しみながら学び、その学んだことを地域に還元することで交流を活性化し、地域で生き生きと暮らすことのできる社会をめざします。						
評価指標	生涯学習推進委員の活動人数(延べ人数)						
目 標 値	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度	令和13年度	令和14年度
	190	192	194	196	198	200	200
事業計画、目標、評価指標、目標値を設定した理由・内容等	<p>人口構造の変化による少子高齢化の進行、地域内交流の希薄化、各々の生活の多忙化、「役割」に対する意識の変化などの要因で委員の後継者不足が深刻化しています。地域活動に役立つ研修会を実施するなど、行政としても委員の負担が魅力(楽しさ)へ変換できるようなサポートを継続して実施し、活動回数を増やし、参加人数の増加をめざします。</p> <p>目標値については、令和6年度の生涯学習推進委員の活動実績延べ人数(188人)を基準に、少子化を勘案して年1%程度の増加を見込み、6年程度で200人の参加をめざします。</p>						

事業計画 (No.0310)	市民ニーズを的確に把握し、高齢者向け、若者向けといった各世代に対応した、趣味や教養に関する講座を開催します。また、在住外国人のための日本語教室や異文化に触れる歴史文化講座等を開催し、市民の学習意欲の向上に努めます。						
目 標	外国人を含む幅広い年齢層の市民が満足する講座を開催します。						
評 価 指 標	受講者の満足度(アンケート)						
目 標 値	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度	令和13年度	令和14年度
	92%	93%	94%	95%	96%	97%	98%
事業計画、目標、評価指標、目標値を設定した理由・内容等	幅広い年齢層の市民に対して、充実した講座及び学習機会を提供することを図ります。 目標値については令和7年度の91%を基準として、毎年1パーセントの増加をめざします。						

3 学校・家庭・地域の連携強化と、地域社会の教育力の向上

人権・地域教育課

事業計画 (No.0320)	地域住民による学校・園の支援活動を通じて、学校と地域の連携の下で子どもたちの健やかな育みを支えることのできる環境を整備します。						
目 標	学校・家庭・地域が相互に連携し、協力し合うことにより、地域ぐるみで子どもたちを育みます。						
評価指標	地域住民による学校への支援活動への延べ参加者数						
目 標 値	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度	令和13年度	令和14年度
	58,800	59,300	59,800	60,300	60,800	61,300	61,800
事業計画、目標、評価指標、目標値を設定した理由・内容等	<p>地域と共にある学校づくりをめざす中で、地域の方の学校への支援活動に携わっていただく人数が、前期アクションプランと同様に評価指標として適切だと考えます。</p> <p>目標値については、学校運営協議会設置を機会に、ボランティア活動が活発化していますので、過去の実績から58,800人と設定しました。</p>						

事業計画 (No.0330)	家庭教育に関する講座や研修を実施し、家庭での子育てや教育について考えるきっかけの場を提供します。						
目 標	子育ての悩みを緩和するため、保護者向けの研修や講座を実施し、各家庭の教育力の向上を目指します。						
評価指標	家庭教育講演会の参加人数						
目 標 値	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度	令和13年度	令和14年度
	95	96	97	98	99	100	100
事業計画、目標、評価指標、目標値を設定した理由・内容等	<p>家庭教育講演会への参加人数を評価指標としていますが、共働き世帯の割合が増え、講演会に参加が難しい保護者のためにも開催時間の調整や、在宅でのオンライン視聴も可能にするなど参加形式を柔軟に対応し、参加者を増やす取組みを行います。</p> <p>令和8年度の目標値については、令和7年度の家庭教育講演会の参加人数(86人)を基準にし、まずは上記の取組みを行い、6年程度で参加人数が最低100人に定着することをめざします。</p>						

方針2 文化・芸術の推進

1 施設の維持管理

生涯学習課

事業計画 (No.0340)	万葉ホールは文化芸術活動を行うための拠点であり、「かしはら万葉ホール個別施設計画」に基づき、年次的に長寿命化を実施し、効果的な施設管理を図るとともに魅力ある施設運営を実施します。						
目 標	文化芸術活動を実践しようとする市民や団体等に活動の場を提供します。						
評価指標	ロマンピアホールの利用可能日に対する利用日の割合						
目 標 値	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度	令和13年度	令和14年度
	25%	25%	30%	35%	35%	40%	40%
事業計画、目標、評価指標、目標値を設定した理由・内容等	<p>目標値については、ワクチン接種会場となる前の実績に回復できるよう期待した数値となります。近鉄新駅が開業した後はさらに利用率が上がると期待しています。交通至便のメリットを活かし、PR に努め、貸館利用者を増加させていきます。また、今後整備される周辺施設との調和を図り、効率的な施設整備が必要となります。</p> <p>目標値については、令和6年度の利用実績値15.89%を基準に設定しました。</p>						

2 文化ホール

生涯学習課

事業計画 (No.0350)	万葉ホールにおいて、クラシックや伝統芸能などの公演や参加型イベントを実施し、子どもから大人まで、多くの方が芸術に触れる機会を提供します。						
目 標	多様なジャンルの公演を行い、様々な芸術の鑑賞の機会を提供します。						
評価指標	入場可能な席数に対する入場者数の割合						
目 標 値	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度	令和13年度	令和14年度
	70%	70%	70%	70%	70%	75%	75%
事業計画、目 標、評価指標、 目標値を設定 した理由・内 容等	<p>集客率の高い興行を実施するにはあらゆる世代のニーズを把握する必要があります。多角的に情報収集し、予算の範囲内で市民生活に潤いを与える効果的な事業を実施するよう工夫していきます。</p> <p>目標値については、コロナ前(平成30年度)集客実績値49.76%を基準にしています。新駅開業後の利便性向上による集客増を期待した目標値となります。</p>						

事業計画 (No.0360)	市民の生涯学習、文化芸術の発表の場として美術展覧会を開催し、活動成果の発表の場を設けることで創作意欲の向上を図ります。						
目 標	市民の生涯学習・文化芸術活動の推進を図り、新たな参加者層の拡大を図ります。						
評価指標	美術展覧会での出品作品数						
目 標 値	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度	令和13年度	令和14年度
	150	155	160	160	170	170	180
事業計画、目標、評価指標、目標値を設定した理由・内容等	<p>令和7年度(第67回)から出品資格を市内市外問わず(高校生以上)に変更したので、出品数の増加を期待した目標値にしました。今後も若年層、特に高校生、大学生の出品を誘導できるよう PR に努めていきたいと考えています。</p> <p>令和8年度目標値は、令和6年度の美術展覧会の出品点数(126点)を基準に設定しました。本市文化芸術振興の重要行事であり、美術展覧会自体のイメージ向上も含め、募集要項のリニューアルや SNS などでの PR を積極的に行い、出展数の増加をめざします。しかし、ギャラリーのキャパシティもあり、180点が限界となるため、この目標値としました。</p>						

3 こども科学館

生涯学習課

事業計画 (No.0370)	科学の原理を楽しく体験しながら学ぶため、展示物の維持、自主イベントや実験の開催、工作等により子どもたちの科学への興味を引き出します。						
目 標	こども科学館への関心を高め、より多くの方にご来館いただけるよう取り組みます。						
評価指標	こども科学館入館者数						
目 標 値	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度	令和13年度	令和14年度
	50,000	51,000	52,000	52,000	50,000	55,000	55,000
事業計画、目標、評価指標、目標値を設定した理由・内容等	<p>施設自体が老朽化しつつあるが、親子や三世代揃って利用できることや天候に左右されず利用できることが好評であり、入館者の増加が継続しています。また、科学や宇宙に纏わる工作教室や講座も好評で、館のコンテンツだけでなく、科学に興味を持つ子どもを増やす事業も工夫し展開しています。</p> <p>令和8年度目標値は、コロナ前(平成31年度)集客実績値41,553人を基準にしています。</p> <p>老朽化による改修については、来館者を維持できるよう閉館しない方向で部分的に改修を行います。</p> <p>目標値については、令和12年に予定されている近鉄新駅開業後は約10%増の集客をめざします。</p>						

4 図書館

図書館

事業計画 (No.0380)	市内転入者への図書館利用案内の配布、1歳6か月児健康診査時や小学生の図書館見学時の図書館利用促進、SNSを活用した図書の紹介を積極的に行い、図書館の存在をアピールします。						
目標	誰もが親しみの持てる魅力ある図書館をめざします。						
評価指標①	SNSによる情報発信数（回）						
目標値①	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度	令和13年度	令和14年度
	200	200	200	200	200	200	200
評価指標②	市民一人当たりの年間貸出冊数（冊）						
目標値②	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度	令和13年度	令和14年度
	3.6	3.8	4.0	4.2	4.4	4.6	4.8
事業計画、目標、評価指標、目標値を設定した理由・内容等	<p>評価指標①</p> <p>SNSを積極的に活用することにより、図書館に親んでもらい来館するきっかけを作っていきます。なお、発信回数が多すぎるとフォロワー数が減ることが考えられ、発信を1日1回程度に留めます。</p> <p>評価指標②</p> <p>第2期教育大綱の評価指標にしていた「新規の利用登録者数」について、人口の少子化に比例して新規登録者も減っており、比較検討する指標として不相当であると判断しました。そこで人口減少に関わらず、比較対照することが可能な「市民一人当たりの年間貸出冊数」を指標としました。この値は、既存利用者のリピート数、新規利用者数が増えることにより増加します。</p> <p>日本図書館協会の「公立図書館の任務と目標」の「図書館システム整備のための数値基準」2023年改訂版で、人口10万～30万の自治体において、人口1人年間貸出点数を9.62冊としています。この数値は分館を持つ自治体の数字を含んでの値で、単館の檀原市では基準値としては高いと考えます。文部科学省が3年に一度実施する「令和6年度社会教育統計」中間報告で、令和5年度の国民一人当たりの貸出冊数は4.8冊（全図書館の平均値）で、前期比0.2冊増とし、令和14年度には4.8冊に達成できるよう取り組んでいきます。</p>						